

21: 晩期合併症とQOL

1. WGメンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 山下 卓也	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
熱田 由子	日本造血細胞移植データセンター	
飯田 美奈子	愛知医科大学	造血細胞移植振興寄附講座
石川 隆之	神戸市立医療センター中央市民病院	血液内科
磯山 恵一	昭和大学藤が丘病院	小児科
稲本 賢弘	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
井上 雅美	大阪府立母子保健総合医療センター	血液・腫瘍科
大島 久美	広島大学原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究センター	血液・腫瘍内科研究分野
岡本 真一郎	慶應義塾大学病院	血液内科
黒澤 彩子	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
桑原 英幸	ゆう在宅クリニック	
河野 彰夫	愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院	血液・腫瘍内科
酒井 リカ	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	腫瘍内科
塩原 正明	松本歯科大学病院	小児科
谷口 修一	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液科
田淵 健	がん・感染症センター 都立駒込病院	小児科
仲宗根 秀樹	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
廣川 誠	秋田大学大学院医学系研究科	総合診療・検査診断学
藤澤 信	公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター	血液内科
堀越 泰雄	地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立こども病院	血液腫瘍科
増田 昌人	琉球大学医学部附属病院	がんセンター
三原 英嗣	愛知医科大学病院	血液内科
森本 克	東海大学医学部付属病院	小児科・細胞移植再生医療科
森 有紀	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
石田 也寸志	愛媛県立中央病院	小児科
瀬戸 愛花	名古屋第一赤十字病院	血液内科
初見 菜穂子	群馬県済生会前橋病院	血液内科
早川 晶	神戸大学医学部附属病院	小児科
佐藤 篤	宮城県立こども病院	血液腫瘍科
西森 久和	岡山大学病院	血液・腫瘍内科
豊崎 誠子	東海大学医学部内科学系	血液腫瘍内科
山崎 聡	独立行政法人国立病院機構 九州医療センター	血液内科

2. 承認研究の進捗状況(2015年1月-12月 ※JSHCT2016を含む)

21-4	「同種造血幹細胞移植における晩期死亡と死因の解析」 PI:熱田由子
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: 投稿中	
21-7	「同種造血幹細胞移植後の晩期再発に関する検討」 PI:山下卓也
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	
論文業績:	
21-8	「自家造血幹細胞移植における晩期死亡と死因の解析」 PI:飯田美奈子
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: 投稿中	

3. 会議開催記録(2015年1月-12月)

日時	場所	会議内容
2015年 1月10日	国立がん研究センター 中央病院	研究の進捗状況について 新規研究課題について WG 責任者の選任について
2015年 3月6日	神戸国際会議場	研究の進捗状況について TRUMP における調査項目の検討について WG と他職種との連携について
2015年 7月4日	名古屋第一赤十字病院	研究の進捗状況について TRUMP における晩期合併症関連情報の入力状況について WG と他職種との連携について

4. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2015年12月末時点まで)

(537)回

5. WG の今後の活動方針・抱負など

晩期合併症と QOL ワーキンググループ(WG)は、下記の2つの横断的観察研究プロトコルを主導した。

- ① 本邦の同種造血幹細胞移植後長期生存成人患者における Quality of Life に関する調査研究
- ② 本邦の自家および同種造血幹細胞移植後長期生存小児患者における Quality of Life に関する調査研究

両研究は、2012年度より日本造血細胞移植学会主導研究として実施された。①は48施設より患者1154症例、医師1224症例が登録され、現在、3研究課題について解析中である。②は31施設より患者466症例、保護者202症例、医師558症例の調査票を受領し、データ固定が完了している。今後、参加施設及び当WG等が主体となって解析を進め、移植後患者のQOLの改善を指向した研究成果の発信に努める。

当WGでは、TRUMPデータを用いた3課題の後方視的研究が遂行された。しかしながら、現有のTRUMPデータにおける晩期合併症やQOLに関する情報は限られている。今後、移植後患者に対する長期フォローアップ体制が充実することを踏まえて、より適切な晩期合併症に関連する情報の収集についても、当WGにおいて検討を行っていきたい。また、移植後晩期合併症に関わる多職種との連携を行いながら、新規課題を含めた後方視的研究を推進し、移植後晩期合併症の適切な管理と長期生存者のQOLの向上に資する情報の発信に努めたい。